

舌痛症（舌が痛みませんか？）

舌痛症という、見た目には何の異常も認められないのに、舌がやけどをしたような、あるいは歯にこすれる様なヒリヒリ、ビリビリした痛みが何ヶ月も何年も続く病気があります。40～50歳代の女性に多いとされ、起床直後には軽微な痛みで、午後になると増悪することが多いようです。この痛みは不思議なことに食事中や会話中などにはあまり支障がなく、むしろ痛みが軽減される場合があります。ほとんどの場合、我慢できないほどの痛みではありませんが、不快でイライラするような独特のつらさがあります。歯科治療後に発症することも多いのですが、処置とは関係なく発症することもしばしばです。従来この病気には抗うつ薬がよく効くことがわかっていましたが、眠気や口の渇きなどの副作用が出やすいためあまり普及しなかったようです。現在は SSRI や SNRI という副作用の少ない薬もあります。有効率は約70%です。薬の効果は多少個人差がありますが、順調にいけば約1ヶ月でほぼ支障がないくらいに落ち着いてきます。

本症の原因は不明ですが、従来言われてきたような精神的なものや並び、近年は「神経痛」に近い病気とも考えられています。口腔の感覚神経の回路で混戦を起こしているような状態、つまり痛まなくてもよい時に痛みの神経回路が勝手にパチパチと電気を発している状態と推定されます。

